

Windows Server リモート デスクトップ サービスを使用した Microsoft デスクトップ アプリケーション ソフトウェアのライセンス

2020 年 4 月

この簡易ガイドは、すべてのマイクロソフト ライセンス プログラムに適用されます

目次

概要.....	1
詳細.....	1
Windows Server リモート デスクトップ サービスのライセンス.....	1
Windows Server リモート デスクトップ サービスを使用した Microsoft デスクトップ アプリケーションのライセンス.....	2
Windows Server リモート デスクトップ サービス上で Microsoft Office を使用する際の注意事項: サンプル シナリオ	4
よく寄せられるご質問 (FAQ).....	6

概要

このライセンス簡易ガイドでは、Windows Server リモート デスクトップ サービス環境の Microsoft Office デバイス ライセンスについて説明し、よく寄せられるご質問と回答をまとめています。「Microsoft Office にアクセスするデスクトップにつき 1 つのライセンスが必要」というのが、デバイス単位のライセンス ポリシーの原則です。このガイドには Office のデバイス単位のオンプレミス ライセンスに関するご質問と回答のみを記載しており、ユーザー単位のオンライン サービスのお客様のシナリオは対象としていません。

詳細

Windows Server リモート デスクトップ サービスのライセンス

Windows Server のリモート デスクトップ サービス (RDS) の機能を使用すると、ネットワーク全体で Windows Server にリモート アクセスするユーザーのデスクトップ デバイスから、Windows デスクトップ エクスペリエンスと同様の外観と操作性を実現するデスクトップの仮想マシンに接続できます。RDS ライセンスで Windows クライアント デスクトップ (Windows 10 など) にアクセスすることはできません。Windows 10 を仮想マシンに展開する場合、ソフトウェア アシュアランス付きの Windows 10 ライセンス、Windows 10 per User、Windows VDA のサブスクリプション ラ

ライセンスのいずれかが必要となります。リモート デスクトップ サービスの機能では、企業が Windows Server を 1 か所にインストールするだけで、ユーザーはその Windows Server にアクセスして、リモートでデスクトップ アプリケーションを実行したり、ファイルを保存したり、ネットワークを使用したりできます。ホスティングされたグラフィカル ユーザー インターフェイスを介して、ユーザー自身のデスクトップでアプリケーションやその他のリソースを直接使用しているかのように快適に操作できます。

Windows Server オペレーティング システムで実行しているサーバーごとに Windows Server ライセンスが必要です。また、リモート デスクトップ サービスや類似の機能を使用し Windows Server にグラフィカル ユーザー インターフェイスをホスティングするユーザーまたはデバイスごとに、Windows Server CAL と追加のリモート デスクトップ サービス (RDS) CAL が必要となります。

Windows Server で実行されている Azure 仮想マシンの Windows Server リモート デスクトップ サービスのライセンス

基本アクセス

Windows Server の基本アクセスは、Virtual Machines の分単位の課金に含まれます。RDS などの付加的な機能を使用するには、対象のアクセス ライセンスが必要です。

リモート デスクトップ サービスへのアクセス

有効なソフトウェア アシュアランス付きの Windows Server RDS User CAL、または RDS ユーザー サブスクリプション ライセンスをお持ちの場合、Windows Server の使用権の規定にあるとおり、RDS の拡張された権利によって、RDS の機能と Azure の Windows Server にホスティングされたグラフィカル ユーザー インターフェイスにアクセスできます。

Windows Server リモート デスクトップ サービスを使用した Microsoft デスクトップ アプリケーションのライセンス

マイクロソフトは、Office Professional Plus のような従来のデスクトップ アプリケーションのライセンスをデバイス単位でライセンスします。デバイス単位のライセンスとは、製品を使用するデスクトップ、または製品にアクセスするデスクトップごとに、ライセンスを取得する必要があることを意味します。Office デバイス ライセンスを仮想マシンに割り当てることはできません。たとえば、Windows Server リモート デスクトップ サービスを使用して組織全体でデスクトップ アプリケーションにリモート アクセスする場合、ソフトウェアがインストールされている仮想マシンではなく、アプリケーションにアクセスするデスクトップ デバイスごとに個別のデスクトップ アプリケーション ライセンスを割り当てる必要があります。

リモート デスクトップ サービス環境においてマイクロソフトのデスクトップ アプリケーションを使用する場合、デスクトップ アプリケーションにリモート アクセスするデスクトップ用に取得するライセンスのスイート/エディション、コンポーネント、言語、およびバージョンは、アクセスするアプリケーションのものと一致する必要があります。以下に、例を示します。

- ▶ **製品:** Microsoft Office Standard 2019 と Microsoft Office Professional Plus 2019 は別の製品です。Office Standard 2019 のライセンスが割り当てられたデスクトップからは、リモートアクセスによって Office Professional Plus 2019 を使用することはできません。

- ▶ **コンポーネント:** アクセスするデスクトップにスイートのライセンス (Microsoft Office スイートなど) が割り当てられている場合、このスイートのコンポーネントは、リモート アクセスする Microsoft Office スイートのコンポーネントと同一である必要があります。
- ▶ **バージョン:** Microsoft Office 2019 と Microsoft Office 2016 は別のバージョンです。Microsoft Office 2016 のライセンスが割り当てられているデスクトップから Microsoft Office 2019 にリモート アクセスすることはできません。

Windows Server は、コア単位 + クライアント アクセス ライセンス (CAL) モデルに基づいてライセンスされます。ユーザー数よりもデバイス数のほうが多い場合は、デバイス単位のライセンスではなくユーザー単位のライセンスを利用することができます。これとは対照的に、従来のマイクロソフトのデスクトップ アプリケーションはデバイス ベースのモデルでライセンスされます。つまり、ユーザー単位の CAL を利用すると、ユーザーはリモート デスクトップ サービス環境内のすべてのデバイスからサーバー ソフトウェアにアクセスすることができます。マイクロソフトのデスクトップ アプリケーションのライセンスでは、アプリケーションにアクセスできるのは、ライセンスが割り当てられたデスクトップからのみになります。

リモート デスクトップ サービスは、Windows デスクトップはもちろん、Windows 以外のデスクトップ (Linux PC、シンクライアント デバイスなど) からも使用できます。リモート アクセスするデバイスが Windows デスクトップであるかどうかに関係なく、そのすべてのデスクトップについてマイクロソフトのデスクトップ アプリケーションのライセンスを取得する必要があります。

Microsoft Office へのリモート アクセス

Microsoft Office アプリケーションのデバイス ライセンスには、リモート使用権が含まれており、Windows Server RDS を使用してライセンス取得済みのデバイスからソフトウェアへのリモート アクセスが可能です。ソフトウェアにアクセスするデバイスまたはユーザーごとに、それぞれ Windows Server RDS Device CAL/Windows Server RDS User CAL を割り当てる必要があります。

- お客様は、エンド ユーザーが自身のデバイスからリモート アクセスできるように、Office アプリケーションを専用サーバーにホスティングすることもできます。この場合、サーバー自体にライセンスを割り当てる必要はありませんが、サーバー上のソフトウェアにリモート アクセスするデバイスごとに Office ライセンスが必要となります。サーバーが特定のお客様専用である場合は、サード パーティに委託してサーバーをホスティングすることもできます。これは「ソフトウェア管理のアウトソーシング」と呼ばれることが多く、この場合のサード パーティとは認定アウトソーシング企業であり、ホスティング環境はそのお客様専用のサーバー上である必要があります。認定アウトソーシング企業は対象プロバイダーになることを制限され、データセンター プロバイダーとして対象プロバイダーを利用することもできません。対象プロバイダーの一覧は <https://aka.ms/ListedProviders> でご確認ください。

注: ソフトウェア管理のアウトソーシングに関するライセンス条項は 2019 年 10 月 1 日に改定されており、上記内容も反映されています。2019 年 10 月 1 日より前に Office Professional Plus のソフトウェア アシュアランスを保有し対象プロバイダーを利用していたお客様は、引き続き 2020 年 9 月 30 日までその対象プロバイダーを利用できます。

Windows Server リモート デスクトップ サービス上で Microsoft Office を使用する際の注意事項: サンプル シナリオ

リモート デスクトップ サービスの機能によって、古いオペレーティング システムが稼働しているハードウェアのユーザーでも、豊富な Windows デスクトップの機能や、Microsoft Office などのマイクロソフトのデスクトップ アプリケーションを利用することができます。ただし、これらのデスクトップには利用するアプリケーションのライセンスが割り当てられている必要があります。リモート デスクトップ サービスを利用すると、組織内に展開する Microsoft Office の管理とサポートを 1 か所で行うことができます。

注: Windows Server リモート デスクトップ サービスを利用して Microsoft Office にリモート アクセスするすべてのデバイスには、Windows Server CAL と Microsoft Office のライセンス、およびリモート デスクトップ サービス CAL が必要になります。Microsoft Office を使用する、または Microsoft Office にアクセスする予定のすべてのデスクトップについて、Office を使用する頻度に関係なく、専用の Office ライセンスを取得してください。Windows Server リモート デスクトップ サービスの機能を利用して Microsoft Office にアクセスできるデスクトップには、Windows ベースのワークステーション、Macintosh コンピューター、UNIX ワークステーションなどがあります。アプリケーションをホストするサーバーには Microsoft Office のライセンスは必要ありません。

シナリオ 1: コール センターにおけるリモート使用

あるお客様はコール センターに Windows ベースのデスクトップを 50 台設置しており、このすべてのデスクトップで Microsoft Office を使用したいと考えています。2 台のサーバーで Windows Server リモート デスクトップ サービスを実行し、デスクトップ上での Microsoft Office の使用をサポートしています。このお客様は、サーバー上の Microsoft Office にアクセスするデスクトップごとに 1 つずつ、つまり 50 個の Microsoft Office ライセンスを取得する必要があります。

Microsoft Office を使用する頻度が少ないと予想されるデスクトップがあるとしても、そのデスクトップに対して Microsoft Office ライセンスを取得して割り当てる必要があります。50 台のデスクトップの中の 20 台が Microsoft Office をまったく使用しない場合は、必要な Microsoft Office ライセンスの数は 30 のみになります。このほか、このお客様には、ユーザーごと、またはデバイスごとに RDS CAL および Windows CAL が必要になります。また、各サーバーには Windows Server ライセンスが必要です。

シナリオ 2: 複数のシフト体制を敷くコール センター

あるお客様はコール センターに Windows ベースのデスクトップを 100 台設置しており、このすべてのデスクトップでリモート デスクトップ サービスを利用して Microsoft Office を使用したいと考えています。これらのデスクトップを使用する従業員は実働 8 時間の 3 シフト制で勤務しています。このため、100 台のデスクトップを 300 人の従業員が使用しています。シフト勤務を終えた従業員は、Microsoft Office を終了した後にサーバーからログオフし、次の従業員がログオンして Microsoft Office を実行できるようにします。

このお客様は、Microsoft Office を使用するデスクトップごとに 1 つずつ、つまり 100 個の Microsoft Office ライセンスを取得する必要があります。また、Windows Server ライセンス、および Windows CAL と RDS CAL も必要になります。デバイス数よりもユーザー数の方が多い場合は、デバイス単位の CAL を選択する方法が適しています。

注: このライセンス シナリオで重要になるのはデスクトップの数であり、従業員の数ではありません。

シナリオ 3: 従業員用のデスクトップ ライセンス

あるお客様は 40 台の Windows ベースのデスクトップを保有し、30 人の従業員を抱えています。この 30 人の従業員は 40 台のデスクトップすべてで Microsoft Office を使用します。

このお客様は 40 個の Microsoft Office ライセンスを取得する必要があります。これは、接続デバイス数によるライセンス ポリシーと一致しています。

シナリオ 4: 2 台目のポータブル デバイスとしてのノート PC

あるお客様は、マイクロソフト製品/サービス契約 (MPSA) に基づいてライセンスを取得した 100 台のデスクトップ デバイスに加えて 20 台のポータブル デスクトップ (ノート PC など) を保有しています。

MPSA および Open プログラムに基づいた Microsoft Office のライセンスには、この 20 台のノート PC に対応する、2 台目のデバイスまたはポータブル デバイスの使用権が含まれています。ユーザーは、この 20 台の 2 台目のデバイスやポータブル デバイスから、Windows Server リモート デスクトップ サービス環境で実行されている Office ソフトウェアにリモート アクセスすることはできません。2 台目のポータブル デバイスの使用権は、ネットワーク上での使用では適用されません。

シナリオ 5: 対象デスクトップとしてのノート PC

ある Enterprise Agreement のお客様は、ライセンスを取得した Microsoft Office がインストールされた 20 台のポータブル デスクトップ (ノート PC など) を保有しています。

Enterprise Agreement では、この 20 台のポータブル デバイスを含め、すべてのデバイスは対象デスクトップとしてカウントされ、エンタープライズ製品 (Office など) のライセンスを個別に取得する必要があります。この 20 台のポータブル デスクトップのユーザーは、必要に応じて Windows Server リモート デスクトップ サービスを実行しているサーバーに接続し、Microsoft Office にリモート アクセスします。この場合、ダイヤル アップ接続またはブロードバンド接続を使用します。この 20 台のポータブル デスクトップに、リモート アクセスされる同じエディション、言語、およびバージョンの Microsoft Office のライセンスが割り当てられている限り、その使用はこの 20 台のポータブル デスクトップに割り当てられたライセンスの対象となります。ライセンスが割り当てられているデスクトップ、および個別にライセンスが割り当てられているポータブル デスクトップのいずれからでも、ローカルで Microsoft Office を使用することができます。また、リモート デスクトップ サービスまたはそれと同様の機能を利用して Microsoft Office にリモート アクセスできます。

注: Windows Server リモート デスクトップ サービスを利用して Microsoft Office を使用する場合、Microsoft Office に同時にアクセスするデスクトップの最大数を基にライセンス数を計算して取得することはできません。

Microsoft Office のライセンスは、他のデスクトップと共有したり、複数のデスクトップで同時に使用したりすることはできません。アクティブなセッション数が、ソフトウェアにアクセスするデスクトップの総数より少ない場合でも、すべてのデスクトップの数を基にライセンス数を計算する必要があります。ある時点でアプリケーションを使用するかどうかに関係なく、すべてのデスクトップについてライセンスを取得する必要があります。

シナリオ 6: コールセンターのデスクトップ ライセンスの数

あるお客様は、コールセンターに Windows ベースのデスクトップを 50 台設置しています。このデスクトップすべてで日常的に Microsoft Office を使用しますが、常に Microsoft Office を使用するのは 25 台だけです。

この場合でも、50 個の Microsoft Office ライセンスを取得する必要があります。マイクロソフトのデスクトップアプリケーションを利用するには、Microsoft Office にアクセスする、または Microsoft Office を使用するすべてのデスクトップについて、同時に使用するデスクトップの数に関係なくライセンスが必要となります。マイクロソフトのデスクトップアプリケーションのライセンスは、複数のデスクトップで同時に共有したり、複数のデスクトップに割り当てたりして、同時に使用することはできません。

シナリオ 7: 自宅のデバイスからのリモート アクセス

ある企業の従業員が、自宅に所有するデバイスのデスクトップから企業ネットワークにアクセスするとします。この従業員は、接続中にリモート デスクトップ サービスを利用して、企業所有のサーバー上の Microsoft Office にアクセスします。

この場合、自宅のデスクトップに対して、サーバーで実行されている Microsoft Office のバージョンに対応する Microsoft Office ライセンスを取得する必要があります。企業は、従業員の自宅のデスクトップ用に Work At Home (WAH) ライセンスを購入することで、このようなシナリオに対応できます。有効なソフトウェア アシュアランスを保有するお客様は、従業員の自宅のデスクトップ向けに自宅使用プログラム (HUP) のライセンスを取得できます。また、有効なソフトウェア アシュアランスを保有するお客様は、ローミング使用権を利用して、対象となるサードパーティ製デバイスから Microsoft Office ソフトウェアにリモート アクセスすることも可能です。Microsoft Office 向けの「Work At Home」、「自宅使用プログラム」、「ローミング使用権」の各オプションの詳細については、マイクロソフトのライセンス スペシャリストまたはマイクロソフト コマーシャル ライセンス パートナーにお問い合わせください。

よく寄せられるご質問 (FAQ)

ここでは、Windows Server リモート デスクトップ サービス環境の Microsoft Office のライセンスについてよく寄せられるご質問に回答します。

1. リモート デスクトップ サービス環境でのデスクトップ アプリケーションの使用条件はどのようなものですか (アプリケーションがクライアント デスクトップ上ではなくサーバー上で実行される場合)。

デバイス単位のライセンスとは、製品を使用するデスクトップ、または製品にアクセスするデスクトップごとにライセンスを入手する必要があることを意味します。製品のライセンスを他のデスクトップと共有したり、別のデスクトップに割り当てたりすることはできません。そのため、リモート デスクトップ サービス環境では、ソフトウェア管理のアウトソーシングの条項に従って、そのお客様専用のサーバーで実行されている製品にアクセスするすべてのデスクトップのライセンスを取得する必要があります。

2. コマーシャル ライセンスの製品条項には、ネットワーク デバイスでデスクトップ アプリケーション ソフトウェアを使用できると記載されています。これはどういう意味ですか。

ネットワーク使用規定の下で、ソフトウェア管理のアウトソーシングの条項に従って、お客様専用のサーバーでソフトウェアを実行し、リモート デスクトップ サービス (または類似の機能) を使用して、ライセンス取得済みのデスクトップからアクセス、使用できます。

3. Windows Server リモート デスクトップ サービスでソフトウェアを使用する場合、別のデスクトップ アプリケーション ライセンス モデルがあるのでしょうか。

いいえ、ありません。Windows Server リモート デスクトップ サービスでアプリケーションを使用する場合でも、マイクロソフトのデスクトップ アプリケーションのライセンス モデルがデバイス単位であることに変わりはありません。ソフトウェアにアクセスするデスクトップ、またはソフトウェアを使用するデスクトップごとに、デスクトップ アプリケーション ライセンスが必要になります。

4. リモート デスクトップ サービスを利用して Microsoft Office にアクセスする場合、アクセスする側のデスクトップ用にライセンスを購入するのに加えて、アプリケーションをホストしているサーバーに Microsoft Office ライセンスを購入する必要がありますか。

いいえ。サーバーにインストールされるコピーにライセンスは必要ありません。

5. マイクロソフトのデスクトップ アプリケーションのライセンスをデスクトップに割り当てた場合、そのアプリケーションは、ローカルのデスクトップ上での使用と、リモート デスクトップ サービスを利用したリモートでの使用の両方が可能になるのですか。

はい。そのライセンスがコマーシャル ライセンスによって取得されたものである場合は、両方の使用が可能になります。コマーシャル ライセンスによって取得したデスクトップ アプリケーションのライセンスでは、ソフトウェアをローカルにインストールする権利と、そのソフトウェアを Windows Server リモート デスクトップ サービス (または同様のテクノロジー) を利用してネットワークから使用する権利が付与されます。ネットワーク上で使用する場合、ローカルへのインストールは必要条件ではありません。ローカルにインストールすることが技術上できない場合や、望ましくない場合もあります。

6. デスクトップ アプリケーションのライセンス付与を既に受けたデスクトップを保有している場合、このデスクトップからリモート デスクトップ サービス環境内のアプリケーションをリモートで使用するには、他にどのようなライセンスが必要になりますか。

リモート デスクトップ サービスを利用してアプリケーションにリモート アクセスするデスクトップには、デスクトップ アプリケーションのライセンスのほかに、Windows Server とリモート デスクトップ サービスのクライアント アクセス ライセンスが必要です。

7. Windows Server リモート デスクトップ サービスを利用したアクセスおよび使用を目的として、ネットワーク サーバー上に Microsoft Office をインストールしました。また、リモート デスクトップ サービスのユーザー クライアント アクセス ライセンスを従業員の数分取得しました。会社が管理するすべてのデスクトップから従業員が Microsoft Office にアクセスできるようにしたいと考えています。このような環境で Microsoft Office のライセンスを適切に受けるには、どのようなライセンスが必要となりますか。

Microsoft Office のライセンスはデバイス ベースのライセンス モデルを通じてのみ付与されます。このため、リモート デスクトップ サービスを利用して Microsoft Office にアクセスするデスクトップごとに個別の Microsoft Office ライセンスを購入していただく必要があります。Microsoft Office のライセンスは、デスクトップ間で共有して同時に使用することはできません。また、前回の割り当てから 90 日以内にライセンスを再割り当てすることはできません。

8. Windows Server リモート デスクトップ サービスを利用したアクセスおよび使用を目的として、ネットワーク サーバー上に Microsoft Office をインストールしました。サードパーティ製デバイスから従業員が Microsoft Office にアクセスできるようにしたいと考えています。このような環境で Microsoft Office のライセンスを適切に受けるには、どのようなライセンスが必要となりますか。

コマーシャル ライセンスで Office の有効なソフトウェア アシユアランスをお持ちの場合、ローミング使用権の特典を行使することで、ソフトウェアへのアクセスに使用するテクノロジーに関係なく、ユーザーは対象となるサードパーティ製デバイス上の Office ソフトウェアにリモート アクセスすることができます。ローミング使用権では、Office ソフトウェアをサードパーティ製デバイスでローカルにインストールしたり実行したりすることはできません。ローミング使用権も、ソフトウェア アシユアランスを保有するライセンスを取得したデバイスの主要ユーザーに対してのみ適用され、基本ライセンスの条項に記載されたユーザー数の制限を受けます。

9. OEM から新しいデスクトップを数台購入しました。これらのデスクトップには、Microsoft Office Professional 2019 のプレインストール用のライセンスが付属しています。このソフトウェアをネットワークサーバー上にインストールし、これらのデスクトップからリモート アクセスして使用することはできますか。また、サーバー上で実行されるコピーのライセンスをコマーシャル ライセンス契約によって取得する場合はどうなりますか。この場合の回答は異なるでしょうか。

いずれの場合も、「できない」という回答になります。まず、OEM ライセンスでは、ネットワーク サーバーからのアクセスと使用は許可されません。コマーシャル ライセンス契約によってライセンスを取得し、ネットワークサーバー上のソフトウェアをライセンスが割り当てられたデスクトップから使用できるようになっても、OEM 版の Office のライセンスでは、コマーシャル ライセンスによって取得したサーバー上のソフトウェアにアクセスすることは許可されません。

Microsoft Office の OEM 版とコマーシャル ライセンスのエディションは同じものではありません。ただし、購入から 90 日以内であれば、コマーシャル ライセンス契約に基づいて OEM ライセンスに対するソフトウェア アシユアランスを取得することができます。これにより、コマーシャル ライセンスの Office Standard エディションに対する権利を得ることができます (OEM ソフトウェアに対するソフトウェア アシユアランスの購入に関する詳細な規則については、コマーシャル ライセンス製品条項を参照してください)。ソフトウェア アシユアランスに加入し、ライセンスが割り当てられているデスクトップでは、ソフトウェアをローカルで使用することも、リモート デスクトップ サービスなどを利用してネットワーク サーバーからリモートで使用することもできます。

10. ネットワーク サーバーに Office Professional Plus 2019 をインストールしています。デスクトップに Office Professional Plus 2016 がインストールされ、ソフトウェア アシユアランスを取得している場合、このデスクトップからリモート デスクトップ サービスを利用して Microsoft Office にアクセスすることはできますか。

はい。このシナリオで Office Professional Plus 2019 を使用する場合、Office Professional Plus 2019 のライセンスが必要になります。Office Professional Plus 2016 がインストールされた、有効なソフトウェア アシユアランスの適用対象となるライセンス取得済みのデスクトップでは、ライセンスを Office Professional Plus 2019 にアップグレードできます。

© 2020 Microsoft Corporation. All rights reserved.

本資料に記載された内容は情報提供のみを目的としており、明示または黙示に関わらず、これらの情報についてマイクロソフトはいかなる責任も負わないものとします。これは、ライセンスを取得した製品の許可された使用について説明したものであり、お客様との契約ではありません。コマーシャル ライセンス契約に基づいてライセンス許諾された製品の使用は、契約の条項および条件に従う必要があります。この情報と契約の内容に矛盾がある場合は、契約の条項と条件が優先されます。マイクロソフト代理店を通じて取得されるライセンス価格はマイクロソフト代理店によって決められるものです。